

世界と京都が新たに出会う、文化・芸術の祭典

京都文化カプロジェクト 2016-2020

(旧名称) 京都文化フェア(仮称) 2016-2020

基本構想

—— 概要版 ——

平成28年3月
「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員会

京都文化カプロジェクト2016-2020に向けて 「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員会からのごあいさつ



委員長

長尾 真

平成26年10月に推進委員会が立ち上がってから、この間、ワーキング会議を設置し、精力的にご検討いただくとともに、イベントアイデアの募集やワークショップを開催し、「京都文化カプロジェクト」に期待される様々なご意見やご提案を府民市民の皆様からいただきました。その結果が、この度まとめたこの基本構想です。

これから2020年に向けて文化的なイベントをいろいろ実施するというだけでなく、長期的な視野、大きな視点で、世界に冠たる文化・観光のみやこである京都から、日本文化を本当によく理解していただくための取組を積極的に進めていただきたいと思っております。そして、この取組を通して、京都（日本）の人が京都（日本）の文化により一層の関心を持って大切に取る取組が展開され、京都の文化力が高まっていくような、大きな効果をもたらすものとなることを期待しております。



副委員長（京都府知事）

山田 啓二

文化庁の京都移転が決定し、文化資源を活用した観光振興・地方創生や国際発信力の向上に大きな期待が寄せられています。その期待に応えていくためにも、「京都文化カプロジェクト」の果たす役割は大変重要であり、京都市や経済界、文化関係者の皆さんとともに取りまとめたこの基本構想をもとに、さらに具体的実施計画の検討を進め、今年（平成28年）10月の政府主催「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」を皮切りに、日本文化を代表する京都から世界に向けて発信してまいります。

京都府には、北から南まで各地に多様で豊かな文化があり、現在、地域の資源を見つめ直す「海・森・お茶」の3つの京都づくりの取組も進めています。オール京都で手を携えて、2020年に向けて文化の力で、京都から日本を盛り上げていきたいと考えます。



副委員長（京都市長）

門川 大作

1200年を超える歴史の中で、美しい景観と多様な文化を育み、磨き、高めながら、今日まで脈々と継承してきた京都のまち。この京都が誇る豊かな文化力を、147万の京都市民の皆様と共に、2020年、更にその先の未来を見据えて世界に発信していく取組が「京都文化カプロジェクト」です。

多くの皆様と共に練り上げたこの基本構想の下、本年10月の「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」をキックオフとして、オール京都で取り組んでまいります。

長年の京都の悲願であった文化庁の全面的な移転決定！これを大きな力に、文化を通じて京都から日本、さらには世界を元気にしていく決意です。「世界の文化首都・京都」への飛躍を目指して、共々に力を合わせてまいります！



副委員長（京都商工会議所会頭／
京都府商工会議所連合会会長）

立石 義雄

京都は日本文化の中核都市であり、歴史に培われた人々の生き方、暮らし方の知恵と産学公が連携する「知恵インフラ」をベースに、多様な交流のなかで知恵を高め、融合することで、伝統産業から先端産業まで、高品質・高付加価値型のビジネスモデルを構築してきました。

文化庁の移転決定を追い風に、「京都文化カプロジェクト」を通じて、世界の人々や文化、産業の大交流を生み出し、京都が目指す「世界交流首都」を実現する礎となることを期待しております。

今年7月には、東京五輪に向けた「交流文化・観光の創造」をテーマに、全国商工会議所観光振興大会が京都で開催されます。この「京都文化カプロジェクト」が全国の文化プログラムのモデルとして評価されるよう、オール京都の知恵と力を合わせて成功に導きたいと考えております。

「京都文化カプロジェクト」は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、京都を舞台に行われる文化と芸術の祭典です。

京都では、2014（平成26）年8月、日本を代表する文化的リーダーから「京都文化フェアの呼びかけ」が行われました。（裏面参照）

「呼びかけ」に応じて、2014（平成26）年10月、オール京都で推進委員会を結成。

推進委員会ワーキング会議での議論のほか、ワークショップで提起されたアイデアや府民市民の皆さまからご応募いただいたアイデアを参考に、「京都文化カプロジェクト 2016-2020 基本構想」がまとめられました。

2020（平成32）年に向けて、京都から文化・芸術を世界に発信するとともに、国内外の人々と交流・協働し、熱気と興奮の坩堝（るつぼ）から、新たな創造の潮流を起こしていきたいと考えています。

オリンピックはスポーツと文化の祭典

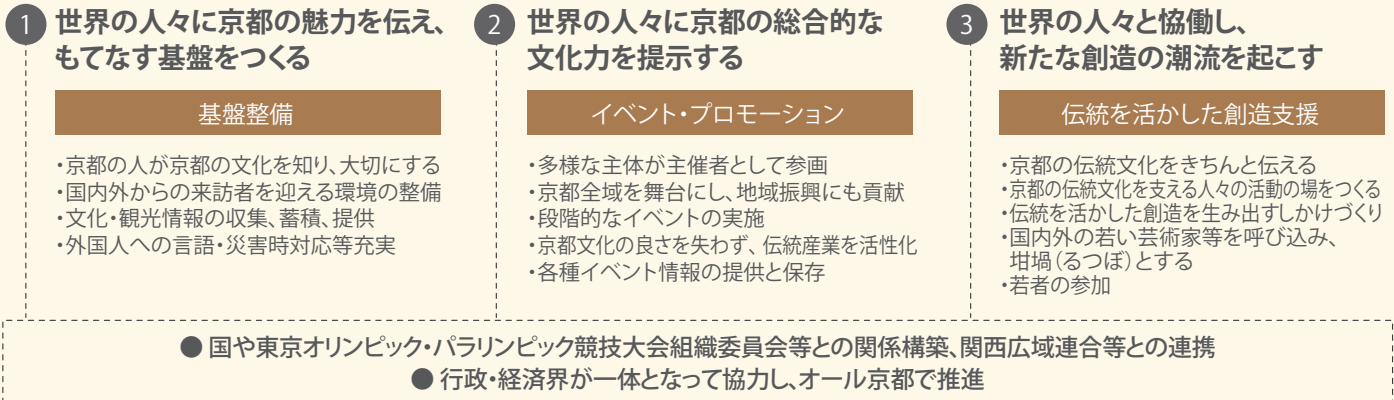
オリンピック憲章では、オリンピズムとはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものと規定して、少なくともオリンピック村の開村から閉村までの期間、文化イベントのプログラムを催すものとされています。

ロンドン大会（2012年）の例では、約18万件の文化プログラムが実施されました。

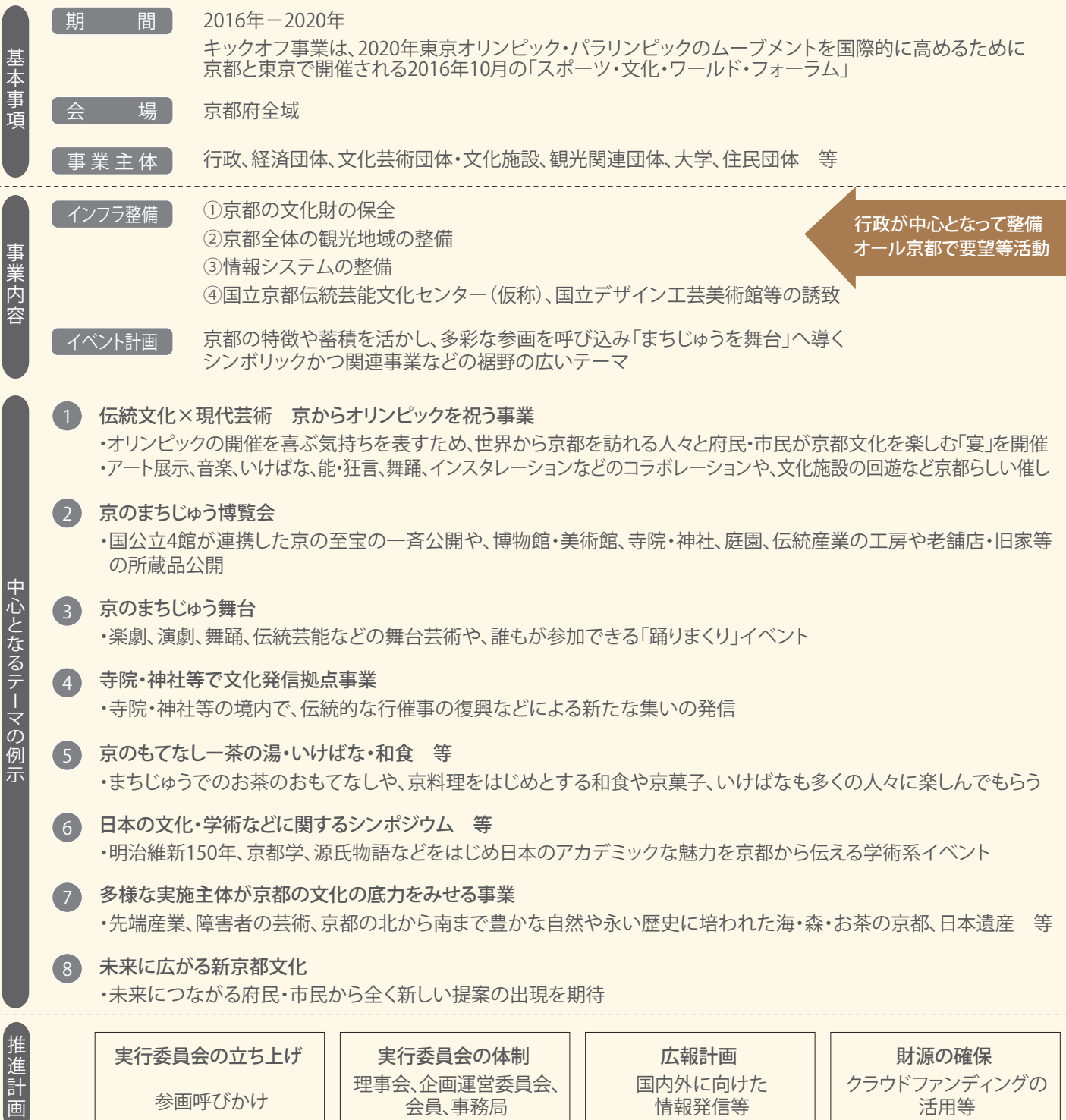
2020年東京大会に向けて、国では開催効果を東京のみならず、広く全国に波及させるため、4年間に日本全国で20万件のイベント、5万人の参加アーティスト、5,000万人の総参加者数の文化プログラムの実施をめざしています。

基本構想の骨子

3つの目標と推進方針



文化イベントの事業構想



京都文化フェアの呼びかけ

文化芸術は、人々の創造性を育くみ、表現力を高めるとともに、心の絆を深め、相互に理解し尊重し合い多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与するものである。

「スポーツと文化の祭典」であるオリンピック・パラリンピック競技大会が、2020年に東京で開催されることは、我が国のスポーツだけでなく文化芸術の更なる発展にとってもまたとない機会をもたらすであろう。この晴れやかな祭典を契機として人々は文化芸術の持つ様々な可能性を再認識するとともに、文化芸術をより身近なものとして実感できるようにするはずである。

京都は、これまで先人が積み上げてきた伝統とその上に絶えず新しい文化を培ってきた、日本文化の心のふるさとである。いのち輝く文化都市・京都は、その持てる文化の力を最大限に発揮し、併せて京都の持つ古今東西にわたる文化融合の可能性を世界に知らしめるとともに、21世紀日本の文化首都として新しい文化の創造と、次代への継承に向けて、不断の努力を傾注しなければならない。

1964年10月10日、東京・神宮の杜の上空に広がっていた抜けるような青空は、「戦後復興した現代日本」の象徴として記憶されている。そこで重要なのは、この復興の「現在」イメージが1964年の東京オリンピックだけでなく、1968年の明治百年とそれを契機とした歴史ブーム、1970年の大阪万国博覧会という「過去」や「未来」に目を向けた国民的イベントと一体として記憶されたことである。

私たちはこの国民的成功をふまえ、京都で日本の近代150年の歩みを振り返った上で(明治150年・2018年)、2020年の東京に呼応した「京都文化フェア」に臨むことを提案する。そしてその先には未来に向けた取組が復興の記念をめざし東北で展開されるべきだと考える。歴史を回顧しつつ助走を始め、オリンピック・パラリンピックを跳躍台として、新しい日本社会の未来像を描くことが不可欠なのである。

今日の日本社会をとりまく状況は、50年前より遥かに難しい。東日本大震災の復興も道半ば、東京一極集中は進み、少子高齢化に閉塞感が漂っている。それを打ち破る国民的イベントが歴史と伝統を誇る京都からスタートすることの意義は極めて大きいといえるだろう。京都は明治維新の舞台となりながら、維新によって首都ではなくなったが、千年の「みやこ」文化を守り抜き、独自の先端的産業を開花させ、世界の学知を集めて、今日では文化首都と称されるまでの地位を築いてきた。

オリンピックでは世界の注目が日本に集まる。世界に向けて日本の文化を発信し体感してもらうまたとない機会である。京都が先がけとなって、日本文化の真髄と、日々の生活に根ざした日本人の深い精神性に基づく日本の文化を世界に向けて発信していかなければならない。と同時に、私たちは、これからの日本の文化を担う若者たちの湧き上がってくる新しい創造の息吹を積極的に受容し、誰もが気軽に楽しめる多彩な文化の祭典へと結実してほしいと願っている。

そのためにも、内外の多くの方々一人・団体・企業・行政機関が、この意義を深く理解し、またこれに賛同して、多彩な記念の取組を展開されんことを期待する。

平成26年8月18日

梅原猛 坂田藤十郎 千玄室 山中伸弥 冷泉貴美子

「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員会委員名簿 (五十音順)

◎委員長 ○副委員長 ☆ワーキング座長 (平成28年3月28日現在)

委員名	所属・役職	委員名	所属・役職
赤松 徹 眞	(公財)大学コンソーシアム京都理事長	千 宗 室	茶道裏千家家元
荒巻 禎 一	(公財)京都文化財団理事長	○立石 義 雄	京都商工会議所会頭/京都府商工会議所連合会会長
在田 正 秀	京都市教育長	建 畠 哲	京都芸術センター館長、多摩美術大学学長
有馬 頼 底	京都仏教会理事長	田 中 恆 清	京都府神社庁長
池坊 専 好	華道家元池坊次期家元	寺 井 友 秀	NHK京都放送局長
井上 八 千代	京舞井上流五世家元	中 山 泰	京都市市長会会長
沖田 康 彦	京都府商工会連合会会長	◎長 尾 真	(公財)京都市音楽芸術文化振興財団理事長、元京都大学総長
○柏原 康 夫	(公社)京都観光連盟会長/(公社)京都市観光協会会長	畑 正 高	京都府教育委員会委員長職務代理者
○門川 大 作	京都市長	松 浦 晃 一 郎	明日の京都文化遺産プラットフォーム会長
☆金田 章 裕	元人間文化研究機構長	松 本 紘	国立研究開発法人理化学研究所理事長、前京都大学総長
☆佐々木 丞 平	京都国立博物館長/独立行政法人国立文化財機構理事長	村 井 康 彦	国際日本文化研究センター名誉教授
佐々木 雅 幸	文化庁文化芸術創造都市振興室長(通称:文化庁関西分室)	村 田 純 一	(公財)京都文化交流コンベンションビューロー理事長
潮 江 宏 三	京都市美術館長	柳 原 正 樹	京都国立近代美術館長
汐 見 明 男	京都府町村会長	○山 田 啓 二	京都府知事
白 石 方 一	京都新聞ホールディングス社長	渡 邊 隆 夫	京都伝統工芸産地協会会長

[お問合せ先] 「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員会事務局

京都府文化スポーツ部文化交流事業課 電話 075-414-4279
 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課 電話 075-366-0033
 京都商工会議所産業振興部 電話 075-212-6450